

## 第15回兵庫県子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成29年6月13日 午後2時30分～午後4時30分

場所：ラッセホール サンフラワー

### ○委員

子ども・子育て支援においては、どうしても問題ばかりが表面化しがちになってしまう。しかし、全国的に出生率が低下基調の中、今回、兵庫県の出生率が上がったことは、さまざまな対策が効いていると希望が持てる。

### ○委員

全施策を通して目標の達成率は非常に高いが、目標設定が妥当かという検証が必要。そういう意味で、全国や他府県の状況・水準と兵庫県の違いはどのあたりか、比較してどうかという視点も必要。

### ○委員

待機児童対策は、待機児童ゼロの地域や減らし続けている地域もあれば、どんどん増えている地域もあり、地域に大きな偏りがある。この地域差に対して、県がどう指導・助言していくのが課題。

### ○委員

計画は非常によく達成しているが、さらに深めて、その中身がどうか気になる。例えば、児童クラブも冒険ひろばも増えたが、子どもの視線に立ったときに、子ども達が伸び伸びと過ごせるクラブとなっているのか。子どもが、どのような環境で育つことを望んでいるのか調べることも必要。

ひとつ提案だが、アメリカ等では、高校生、大学生がお兄さんお姉さん役になり、子どもがちょっとしたことを電話等で気軽に話すという取り組みをしている。県でも施策として検討して欲しい。

### ○委員

結婚、妊娠、出産への切れ目ない支援の中で、「子育て世代包括支援センター」に関して、妊娠期や出産期といった各ステージを一貫して支えるのはわかる。ステージを時間軸として、各時期に複数の悩みをもっている場合にも対応できる横軸についても切れ目のない包括的な支援が必要。

また、最初に相談した保健師さんが就学前までずっと伴走してくれるような形の仕組みになると、それも切れ目がないとなり、非常に充実した仕組みになる。

## ○委員

兵庫県で「子育て世代包括支援センター」開設を積極的に進めている中、厚生労働省から「市区町村子ども家庭総合支援拠点」の整備に努めるよう通知が発出された。それぞれが重なっている部分と機能が違う部分があると思うが、県としてどのように推進していくのか整理が必要。

また、「子育て世代包括支援センター」についても、就学前まででなく、子どもの自立までという長いスパンで支援するのが望ましい。

## ○委員

尼崎市では、子どもの育ちにかかる支援センターの整備を計画しており、18歳までの切れ目のない支援を目指している。しかし、行政は設計にあたって、各分野の専門家の意見や現場の声を貰っていないので改善が必要。

また、行政には多様な支援事業があるので、誰がどこへどうつなげるかという仕組みが必要。その中では、つなげる人の役割が特に重要となってくるので、スキルアップ研修が必要。

## ○委員

兵庫県の少子化を克服するために一つ提案。フランスが少子化を克服した大きなポイントは、男性の育児参加にある。今、働き方改革に取り組んでいるが、第2子の出生に影響を及ぼす要因は夫婦間の家事、育児にあることから、男性が3日も育休を取って手伝うことが一番いい施策となる。

神戸新聞社「すきっぷ」との「大学等による子育て支援促進事業」では、男性の育児参加を学生にしっかり見せているので非常に効果的。

## ○委員

姫路における認定こども園不正事案の再発防止策として、「新規参入施設等への巡回支援事業」を活用し、専門家がしっかり入り込んで、適正な保育が行われているかチェックすることが必要。

しかし、県下で15%の市町しか実施していないのが課題。現在、小規模保育所をあちこちで開設しているので、特に0～3歳までの幼い子どもたちをしっかりと守るという観点から各市町での実施が必要。

## ○委員

障害児通所支援事業は確かに増えているが、発達障害の子どもも増えており、まだまだ満足いく支援ができる環境が整っていない。

デイサービスについては、市によって障害児が1カ月に使える利用回数が違い、夏休みや冬休みといった長期休暇に対応してくれるところがないので、今後検討が必要。

### ○委員

妊娠からの切れ目のない支援について、昨年度までは不妊の方のケアだけで、妊娠中の悩み相談部分が抜けていたのではないか。

また、思いがけない妊娠に悩むSOSというフリーダイヤルを開設し、そこに多彩な相談が寄せられている。もっとアピールしてはどうか。

### ○委員

「社会が子育て、子どもは社会で」がキーワードと思っているが、その中では、子どもの暮らしのニーズ、子育て支援のニーズに対応することが重要であり、各施策や情報をつなげる人がもっと必要になってくる。

### ○委員

「結婚力アップセミナー」について、熊本では、公民館や空き家を使うほか、講師に老人会の方など人生経験の豊富な方を起用していく事例があると聞いたので、兵庫県としても検討して欲しい。

### ○委員

0、1歳児の待機児童数が非常に多い。保護者は、本当は1年間育休を取得し、1歳から保育所に預けたいが、1歳になってしまうと入所できないので0歳から預けているのが現状。1歳児の定員を拡大するような施策を検討して欲しい。

また、施設型給付の算定単価についても改善の余地があるので、国に対して見直しをしっかりと要請すること。

### ○委員

待機児童は、市町によって取り組み方が随分違う。待機児童が多く発生している市には、そこの事情や施策の問題があるはずなので、県は、そこに手厚く財政措置をするなど地域格差を解消する対策を講じていく必要がある。

以上